県北の10校が研究成果

ポリテックビジョンinおおだて

「もの・ことづくり」の22題

秋田職能短大

県北地区の高校や短期大学校など10校の学生が日々の研究結果を披露する発表会「ポリテックビジョンinおおだて」が7日、大館市の秋田職業能力開発短期大学校（後藤康孝校長）で開かれた。学生たちは身に付けた技術を生かした工作や、生活の中で感じた疑問を探究した成果を発表し互いに学びを深めた。

教育交流などを狙いに毎年開催している。職能短大3学科の学生と、花輪、十和田、大館鳳鳴、大館桂桜、大館国際情報、秋田北鷹、能代、能代科学技術の各高校、義務教育学園阿仁学園の生徒ら計約70人が参加。工作を中心とする「ものづくり」と、身近な疑問を探究する「ことづくり」の2部門計22題で発表した。

職能短大生産技術科の3人は、砂などの研磨剤を製品に吹きつける箱形の装置の製作について発表。ペダルを踏み込むことで稼働するように設計し、ガラスコップの模様付けなどで「子どもたちが安定して作業できる」ことを目指した。ペダル部分の滑り止めなど工夫をこらして手軽に作業できる装置となった。

大館桂桜高生活科学科の4人は持続可能な学校生活をテーマに発表。原油価格の上昇などで電気料金が高額になっていることから、環境に配慮しつつ快適に過ごせるよう学校の節電に取り組んだ。遮熱シートを窓に設置して冷房の効率化を図ったほか、こまめな消灯などに努めた結果、電気料金を減らすことに成功。生徒は「小さな取り組みを実践し、持続可能な社会の構築に参画したい」と述べた。

このほか、東北能開大主催の「電子情報系ものづくり競技会」も行われた。同大系列の3校から15人が参加し、電子回路の製作とプログラミングの技術を競った。

研究成果を発表する学生たち（職能短大）